

WOO取材陣 颯颯in大沢の池

「大沢の池」は、嵯峨天皇の離宮・嵯峨院の庭池なのだ。で、これを庭湖と呼んでいるんだ。日本最古の庭苑池であるこの池には、天神島・菊ヶ島と庭湖石があり、この二島一石の配置は嵯峨野流いけばなの基本形に通じているんだぞ。池の畔には茶室望雲亭・心経宝塔・石仏・名古屋の滝跡があり、嵯峨野の情緒が感じられるんだぞ。

なのにWOOの取材班ときたら、まったくもう……。

大沢の池

池のほとりに屋形船に乗船場がある。そのあたりには、餌をねだりに鯉が集まってくる。大きな鯉だ。その鯉に向かってWOO取材陣は

「でっかい鯉やなあ、人でも襲って食ってるんとちゃうけ？」とか

「調理したら百人分くらいの刺身が取れそうだなあ」とか

「いやいや寄生虫が……」など無礼な発言が相次いだ。

古来中国では神の使いともされる神聖な鯉に対して、まったくもう！

次に水中から何やら茶色い固まりが浮かんできた。亀の甲羅だろうか。

「おお、池のぬしが現れた」「亀かなあ？」「それにしても息継ぎをせんなあ」「木の株ではないか？」

こらこらこら！石を投げるんじゃない！

池の主は再び沈んでいった。

亀は万年って言ってなあ。おめでたい動物に対して、まったくもう！

池の周囲の遊歩道を歩く。大沢の池を眺めながら

「いやあ、久しぶりだなあ。2000年ぶりだ」

「朕が平安遷都を行って以来だからな」

平安遷都二千年祭をふまえてのお約束の駄洒落。

近くのおばさんが失笑していたぞ。まったくもう！

護摩堂

「そーいえば大沢の池って、けっこう時代劇なんかのロケに使われるんだよなあ」「そうそう、このお堂なんか、町人と娘さんの逢い引きの場所なんかに使われてたり」「そーそー。ほんでもって、娘さんが悪党にさらわれたりして」などとくだらないことを喋っていたら、浅黄の袈裟をきた若いお坊さんが護摩堂に入っていった。しばらくすると薄い煙とともに香を焚くような匂いが。

「うーむ、生臭坊主め、魚でも焼いているのではあるまいな」
どう匂えば、香の匂いが焼き魚の匂いになるのだ？護摩木を運んでいるところを見たんでしょ！仏に仕える方に対して無礼だぞ、まったくもう！

多宝塔



大沢の池から少し離れると広場があり、そこに鮮やかな朱塗りの塔がある。多宝塔という名前から想像するに、庶民から奪い取ったお宝がごっちゃりしているのだろう（失礼！）。多宝塔をバックに堂々ポーズを撮っている者が。おーい、F君、そこは立入禁止だぞ。

まったくもう！

以上、正義と秩序を基調とするWOO取材陣とは思えない顰蹙ぶり。
こんなことが続くようであれば、いずれ神罰が下るであろう。

（くだらないなあ）。

この項終わり